

7 JICA (独立行政法人国際協力機構)の仕事

(JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY=ジャイカ)

JICAは、日本の政府開発援助(政府が行う援助のこと、ODAともいいます。)のなかで主に技術協力を実施する政府関係機関(独立行政法人)です。

現在、JICAは世界中の56カ所に在外事務所と42カ所に駐在事務所をもち、152の国々に協力を実施しています。コロンボにあるスリランカ事務所もこの56の在外事務所のうちのひとつです。スリランカの近隣の国では、インド、パキスタン、ネパール、バングラデシュ、ブータン、タイ、ミャンマー、モルディブにも事務所があります。

* 政府開発援助は、資金を贈与したり貸し付けたりする資金協力和、技術を提供する技術協力があります。資金を贈与する協力を無償資金協力、貸付をする協力を借款と言ひ、無償資金協力は外務省及びJICA、借款は国際協力銀行、技術協力はJICAによって実施されます。JICAは無償資金協力が円滑に進むようにするための仕事もしています。

JICAの技術協力はとても幅広い仕事です。日本人の医師や看護師、設計技師や技術者、教員や行政官などを派遣し、協力相手国の人々が技術を習得する手助けをします。また、相手国の技術者や行政官を日本に受け入れ、技術習得のための視察や研修する機会を提供していますが、すでに日本に行ったスリランカ人は6300人を超えています。また、空港や道路、病院や学校、発電所やダムなどの建設のための調査や設計の仕事もしています。こうした施設を建設するときには日本の無償資金協力和借款が役立っています。

スリランカで最大級規模のスリ・ジャヤワルダナプラ総合病院や
ルーパワーヒニ・テレビ放送局は無償資金協力で建設されまし
た。また、ゴルフフェイスグリーンから見ると沖合に船が多く見え
ますが、この船が着くコロンボ港の多くの施設が借款によって整備
されました。

このような病院や港を造るときの調査と設計をしたのはJICA
Aが派遣した技術者の人たちです。みなさんが使っている水道や
電気にも、こうした協力が実施されています。

スリランカの最大の産業は、繊維・衣料品製造です。繊維・衣
料品はスリランカ全体の輸出額の半分以上を超えており、この分野で働
いている人は約40万人います。JICAは、この産業を技術と
人材の面から支援するために技術協力をしています。これはスリ
ランカの繊維・衣料産業が世界の国々の繊維・衣料産業と競争し
ても負けないようになるために協力しているのです。

ボランティア派遣事業もJICAの仕事の一つです。開発途上国
で協力活動を志望する日本国民をボランティアとして約2年間派遣
します。地方や草の根レベルの技術協力で技術や知識をいかし、開
発途上国の国づくり、人づくりに協力しながら、ボランティアの人
たちは見聞を広めたり、また派遣先の国々のふつうの人たちとの交
流や相互理解を深めています。このため、JICAボランティアは
「草の根大使」とか「民間大使」とよばれています。日本人学校生徒
も社会見学の中でボランティアの働いているところを見学していま
す。

JICAの仕事は、このように多岐の分野や地域にわたって行わ
れていますが、最近では、特に地球全体に関連する課題である環境

問題，疾病，犯罪，災害及び紛争からの復興などにも関心を向ける必要が出てきています。

環境問題は，いくつかの国々や一人一人の関心や心がけがないとうまくいきません。大陸にある河川は，いくつかの国々を流れていきます。上流や中流で河川が汚れたり，毒物が流されたりすれば，下流にすむ人たちは影響を受けます。環境問題には難しい面がいくつかありますが，関係者が話し合いや技術協力等を通じて解決していく以外にありません。

スリランカでは過去20年間にわたり，シンハラ人とタミル人との間に民族紛争が繰り広げられ，ジャフナ，キリノッチなどの北東部地域では多くの人的・物的被害が出ました。

また，この紛争により，80万人以上の国内避難民が難民キャンプでの生活を余儀なくされました。JICAはこういった紛争影響地域の復旧のためのプロジェクトを実施しています。

2004年12月26日にスマトラ沖で大地震が発生し，スリランカの東部，南西海岸地域に大津波による大きな被害が出ました。

JICAは国際緊急援助隊医療チームを被災地に派遣し，けが人の治療を行いました。



津波の被害を受けた地域の住民を支援する活動